

# でんち

一般 電池工業会  
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011  
東京都港区芝公園三丁目5番8号  
機械振興会館内  
電話 (03) 3434-0261 (代)  
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>  
ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>  
発行人 淡路谷隆久

平成28年1月1日



## 平成28年・年頭のご挨拶

一般社団法人 電池工業会  
会長 依田 誠

新年あけましておめでとうございます。  
平成28年の新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。  
日頃より電池業界へご理解と発展に、ご厚情を賜っております関係  
各位に対しまして心より感謝申し上げます。



初めに、電池工業会がいま注力している取り組み  
をご紹介します。

電池工業会では、安全で安心な電池を消費者の皆様へお届けすべく、とくに消費者の皆様が直接手にとることの多い一次電池について、環境省や経済産業省、自治体とも連携・協力をしながら活動を行っております。そのひとつが、ボタン電池の水銀条例

対応です。水銀を含有するボタン電池は、回収や処理方法などのブラッシュアップを図り、消費者の皆様への広報活動に力を入れています。また、コイン形リチウム一次電池の誤飲防止対策では、乳幼児が素手で開封できないパッケージのガイドラインを作成すると共に広報活動を通じて、広く消費者の皆様への呼びかけを行っております。

続きまして、電池工業会を取り巻く状況についてお話しします。昨年12月に開催されたCOP21に象徴されますように、世界的な環境保護の流れの中、欧米を中心に大型の蓄電池市場への注目がますます高まっています。

再生可能エネルギー先進国のドイツでは、再生可能エネルギー比率は29%に達しています（日本は12%程度）。これを2020年までに35%とする目標を掲げる一方で、電気の品質維持が難しくなってきた、あるいは、電気代が高いなどの課題があります。そこに、自然環境への高い関心が加わり、家庭用の蓄電システムを導入する機運が高まっています。

北米でも、地球温暖化対策、電力インフラ老朽化対策として、蓄電システムに関心が集まっています。とくにカリフォルニア州では、2020年までに再生可能エネルギー比率33%を目標としており、再生可能エネルギーの導入促進と安定的な電力網の両立を目指して、同州の大手電力会に対して2010年から段階的な蓄電システムの導入を義務付けています。

こういった状況下、日本の電池メーカーもビジネスチャンスを求めて世界市場へ進出を始めており、今後、電池業界の競争がグローバル規模で加速すると予想されます。

このような流れは国内市場においても例外ではありません。経済産業省の「定置用蓄電システムの購入補助金」による導入促進効果もあり、国内でも再生可能エネルギーの普及が進んでいます。一昨年の九電ショック以降、再生可能エネルギー関連の設備投資は一時的に落ち込んでいるものの、将来に向けて普及が拡大するのは間違いありません。

また、今年には日本における電力自由化元年です。「電力をいかに効率よくコントロールするか」。そこでもカギとなるのは電池です。今後は蓄電システム単体ではなく、他の新エネルギー関連機器とのセットで普及が進むものと考えています。その点にお

いて、資源エネルギー庁による「大型蓄電システムの接続保留緊急対策の補助金」は、導入までに長期間必要な大型の蓄電システムにとって使いやすいものとなっており、工業会もさらなる促進に取り組んでまいります。

また、車載分野におきましても、CO<sub>2</sub>削減に向けた各種規制（CAFÉ基準、ZEV規制、ユーロ6など）が本格化していきます。さらに、VW問題により、車両は電動化の方向性へ舵をとり、電気自動車やプラグインハイブリッド車といった「EV」の普及が加速していくでしょう。現在、EV普及の足かせとなっている一充電当たりの航続距離を伸ばすため、より高性能な次世代蓄電池の開発競争がますます激化しています。

日本政府は、環境分野の新戦略として「EVの航続距離を現在の5倍にする次世代蓄電池」など、環境分野の技術開発強化に向けた戦略を今春にまとめることを決定しました。電池工業会といたしましても、蓄電池市場への期待にこたえるべく、これからも会員各社と共に全力で取り組んで参る所存です。今後とも、関係省庁ならびに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

結びに、2015年の日本経済は、金融緩和や財政政策に続く資源安、円安効果やインバウンド需要の活況などで、好業績となった企業が多い1年でした。反面、庶民感覚として好景気を実感できない、いわば富の再配分のバランスを欠いた年でもあったように思います。今年の干支、丙申（ひのえ・さる）の意味は「形が明らかになっていく」そして「果実が成熟して固まっていく」状態を表すそうです。こじつければ、これまでに打ってきた色々な手がようやく効果を表し始め、成果である果実が結実する年と解釈することもできそうです。

願わくば、2016年が会員各社様の飛躍の年とらんことを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

# 平成27年度第3回一次電池部会を開催

平成27年12月11日、野村部会長（東芝電池株）を議長に、平成27年度第3回一次電池部会を開催した。冒頭、野村部会長より新委員の村上委員（パナソニック）の紹介の後、BAJ競争法コンプライアンス・ルールに則り部会進行する旨の宣言がなされた。その後、部会長および専務理事の挨拶、各委員会の代表者より活動報告があった。



## 1. 野村部会長挨拶

12月8日に発表された7～9月期のGDPは、2期ぶりに上方修正となり、10月の景気動向指数も、9月から2%アップしたという新聞記事もあった。好転方向になってくれば、我々としてもありがたい。他方、電池に関して、日経POSのデータでは、上期（4月～9月）は、一次電池全体で前年比102%と伸長したが、下期は95.8%と予想され、いまだに厳しい状況である。直近では11月に入って、単1、単2の需要が伸びている。これは寒くなって、ストーブなどの需



要が増えていると思うが、歳時用期になる年末に向けて、好調を期待するところである。

日本の技術と言えば、自動車、新幹線などいろいろあるが、最近では、旅客機やロケットの国内技術が更に脚光を浴びている。電池において、当然日本国内の技術が技術革新の発信元であることは間違いない事であるので、我々日本メーカー、BAJ含めて、業界をよりリードして発展していければと思う。我々もそれに協力していきたい。

## 2. 淡路谷専務理事挨拶

古河電池が販売しているマグボックス（マグネシウム・空気電池）をBAJでも購入した。この電池は非常用で、水を入れることにより発電する電池である。10年程度保存でき、水の他、海水でもオレンジジュースでも入れれば発電する。大きさは、約23cm角のボックスであり、電極は、マグネシウム板と酸素を透過する炭素のシートを使用し、電槽などは紙で構成されている。使用後は一般ごみとして廃棄できることも特徴とのこと。エネルギーとしてはスマホを30回程度充電できる。



古河電池からは、この前の東日本大震災でいわき市の工場が被災し、このような電池があればとの発想と他の分野で開発している材料をヒントに電極を開発し、商品化できたとのこと。マグネシウム・空気電池は昔から知られた電池系ではあるが、一捻りして、非常用に用途を絞ってニッチな商品として製品化している。これも開発という意味でひとつの手法と思うので、このような開発事例も参考にして、この部会からも新しい電池が出てくることを期待している。

### 3. 委員会報告

続いて各専門委員会から平成27年度の活動経過報告があった。

#### (1) ボタン電池回収推進委員会

##### \* ボタン電池回収実績（協力店数と回収量）

- ・協力店数は前年同期比で増加。回収依頼件数は月により異なるが、前年同期比では大幅伸長が続く。

##### \* 回収缶の新デザイン

- ・第3回委員会（9月15日）及び2度のメール審議を経て、新デザインを決定、11月27日から出荷を開始。

##### \* 水俣条約 国内法制化への対応

#### (2) 器具委員会

##### \* 防犯ブザー規格SBA S 1602の改訂（防水性の追加など）

- ・10月30日：第4回委員会にて審議  
各社担当分について内容を確認。大筋で改定原案が完了した。
- ・今後の進め方  
2016年1月：改定原案について全国防犯協会連合会との意見交換  
2016年2月：第27-6回委員会にて標準化委員会対応準備（対比表の作成など）  
2016年4月：標準化委員会の開催

2016年上期中に冊子印刷

##### \* 電池器具表示に関するガイドライン改訂

- ・家電製品協会発行の「家電製品の安全確保のための表示に関するガイドライン（第5版）」を参考に改訂
- ・12月3日：第5回委員会にて審議。  
各社担当分について内容を確認。
- ・ガイドラインの改訂時期は、PL委員会のガイドライン改訂も考慮して、来年度を予定。

#### (3) 資材委員会

##### \* 施設見学会（11月7日）の報告

青森県下北半島に立地する『新むつ小川原（株）』が管理する開発地区の各種施設を巡回見学。（風力発電施設群、むつ小川原国家石油備蓄基地、風力ユース六ヶ所ソーラーパーク、六ヶ所原燃PRセンター、二又風力蓄電池施設/EESトレーニングセンター、国際核融合エネルギー研究センター）

##### \* 主要5材料（亜鉛・リチウム・マンガン・ニッケル・コバルト）の動向確認

- ・5材料のうち、LME・LMB商品のZn、Mn、Ni、Coは投機資金離れで軒並み安値推移。
- ・リチウムは中国でのEVバスなどの実需が旺盛なため、市場価格が2倍以上に急騰している。但し日本での通関実績にはまだ急騰が反映されていない。

##### \* コンプライアンス遵守（下請法）に関する意見交換

#### (4) 消費者委員会

##### \* 有事発生時の乾電池及び携帯電灯供給対応について

- ・有事発生時の救援物資供給体制については、業務フロー（完成済）、各メーカー別情報リスト（提供可能資材・連絡先等）、マニュアルを作成する。
- ・第5回委員会で情報リストの項目を決定、各メーカーから事務局への提出。有事発生時の希望配送先を明確にしておくことがポイント
- ・マニュアルのドラフトを作成予定。メールベースで審議を行い、第6回委員会で完成を目指す。

##### \* 野村興産（株）イトムカ工業所の見学（10月2日）の報告

#### (5) PL委員会

##### \* 一次電池安全確保のための表示に関するガイドラインの改訂について

- ・誤飲による事故撲滅と製品安全文化定着に対応した内容へ改訂を行い、第7版を2015年10月に、

刊行した。

- ・更に以下の内容の検討を行い、第8版刊行に向けた作業を進めている。

⇒JIS C 8514 2014及びJIS C 8513 2015に規定されている電池取扱いの安全性に関する注意事項を図記号で表す安全記号（ピクトグラム）の追記。

⇒「家電製品の安全確保のための表示に関するガイドラン」が2015年10月に第5版が刊行されており、改訂内容等の反映を図る。

⇒平成27年度中の第8版刊行を予定。

**\*NITE案件のチェックを行い、一次電池に関する情報共有化の実施。**

- ・各社の事故事例の紹介等を行い情報共有の実施。

**\*東京都商品等安全対策協議会報告書内容のPL委員会関連箇所の精査をメールにて実施。**

## (6) 技術委員会

### 1. 規格小委員会活動（IEC関連）

- a) IEC60086シリーズ改正審議 10/27～29のTC35国際会議にて下記審議を実施
  - 1) IEC60086-2（一次電池個別製品仕様）は10/29にISが発行された。
  - 2) IEC60086-3（時計用電池）：CDVが賛成多数で可決され、FDISのステージに進む。
  - 3) IEC60086-5（水溶液系一次電池の安全性）：CDV文書は賛成多数で可決され、FDISのステージに進む。

### 2. 規格小委員会活動（JIS関連）

- a) JIS C 8500（一次電池通則）およびJIS C 8515（一次電池個別製品仕様）の改正原案作成審議・86-1及び86-2のISをベースに最終見直しを行い、本委員会を来年2月開催予定。

### 3. リチウム小委員会活動

- a) IEC60086-4（リチウム電池の安全性）：日本業界が不利とならない条件で折衝交渉を実施。
- b) IEC62281（輸送中のリチウム一次・二次電池の安全性）のメンテナンス
  - ・CD文書に対する審議を実施。2015/12にCDV文書が回覧された。
- c) 航空輸送関連/ICAO対応
  - ・2017/1/1適用の航空輸送規則を決めるICAO DGP25会議（10/19-30, モントリオール）への事前検討を行い、日本対応案を、国交省検討会の了解を得ながらBAJ意向に沿った形で纏めた。しかし、この案はICAO会議で過半

数以上の支持を得られず、結果、「コイン形電池の危険物適用除外Section II オーバーパック仕様（現行仕様）の継続」（=これまで目指していたボトム条件）を確保することができず。

### 4. リチウムコイン二次電池国際規格WG活動

- ・IEC63005-1（リチウムイオン電池の性能規格）が、IEC61960-3の規格番号に変更されたものを受けて、コイン二次の規格番号はIEC61960-4とすることが決定。
- ・当初は、中国はコイン二次の新規規格へ反対であったが、会議では特に意見が無く、CD移行が決定。

### 5. その他

- a) 無水銀アルカリボタン電池の安全性検証
  - ・規格小委員会で①防犯ブザー想定4直列放電、②LEDライト想定3直列放電、③IEC60086-5に準拠した1セル外部ショートの評価モードを設定し、中国製等9種類のLR44電池（無水銀・有水銀）の評価検証を実施。①・②の放電後、放置1ヶ月以内に破裂する電池（2種）が存在し、これら電池はブザーやライトの実機試験でも同様の破裂を確認。このため実機を模擬する評価条件は確立できたと考える。環境対応委員会とも既に情報共有を図っており、今後、環境省が進める試買評価等に対して情報提供してもらい、データの蓄積を進めながら、ガイドライン化の可能性を検討していく。
- b) リチウムコイン電池の誤飲事故対策への対応
  - 1) パッケージへの対応：9月に「誤飲対策パッケージWG」を発足後、3回の会合実施。対象範囲、目的、誤飲防止パッケージの定義、対象年齢等を審議し、BAJガイドラインを今年度内（2016/3月迄）にまとめることを目標として活動中。
  - 2) セル自身への改良検討：NEMAの要請を受けて、セル自身の安全性ガイドライン検討や対策技術の検証を行う必要がある点は、既に8月の臨時技術委員会や9月の技術委員会で各社合意形成していたが、着手時期を先延ばしにしていた。しかし、10月に行われたANSI会議での米国側からの再要請や、東京都協議会で検討中の最終提言等を勧案し、12/8の技術委員会で新WG立上げを決定。

## (7) 環境対応委員会

水銀新法の政省令制定のための検討に参画。

- 1) 政省令パブコメ募集及び輸出入貿易管理令パブコメ募集（9/8～10/7）の対応
- 2) 第4回技術的事項検討会（9/30）報告
  - ・「主な水銀使用製品のリスト化」「水銀使用製品への表示等の情報提供の方法」「H27年度 試買調査の方法」について説明。
- 3) 統計品目細分新設（HSコード）の進捗状況  
水俣条約にからめ、HSコードの細分新設を依頼。10月30日に正式に告示され、輸入品のみアルカリマンガン電池は「ボタン電池」と「その他のもの」に細分化された。
- 4) 無水銀アルカリボタン電池の評価方法について
- 5) 第5回技術的事項検討会（11/27）事業者ヒアリング準備
- 6) 環境省廃棄物対策課との打合せ（11/13）報告
- 7) 中環審の水銀廃棄物適正処理検討専門委員会（11/24）の報告
- 8) 最新情報：第5回技術的事項検討会（11/27）の報告

## (8) 国際環境規制総合委員会

- \* 地域別（欧州／北米／アジア／中南米）の環境規制状況アップデート
- \* 9/22～25にスイス、モントルーで開催された国際電池リサイクル会議（ICBR）と、国際電池回収団体会議（IRBCR）に委員を派遣した。出張者が報告書を作成し、委員会2回（第46回10/9、第47回11/5）に分けて、報告を行なった。
- \* 11/16～20に新興国視察として、ベトナム、シンシンガポールに委員を派遣。現地ICTグループ及び日越共同イニシャティブとの情報交換によるパイプ形成を行ない、合わせて電池リサイクラー等を視察した。次回委員会（第48回12/22）で報告される予定。

## (9) 広報総合委員会

### \* キャンペーン・PR活動

- ・啓発キャンペーン第2弾：「電池は正しく使しましょう」PR。毎日新聞11/13、11/20、11/27掲出。第1回目には「誤飲」に関する注意を記載。
- ・電池月間キャンペーン：「電池の日・バッテリーの日」PR。朝日新聞11/11、12/12掲出。キャンペーンクイズ 11/11～12/31 BAJのHPにて公開。キャンペーンクイズ告知には、従来の「電池を使い終わったら」に替えて「誤飲」に関する注意を記載。

- ・手づくり電池教室：7月～1月、全国29カ所の科学館等で実施（昨年27カ所、約1,000名）

### \* 情報発信

- ・ホームページ：「安全で正しい使い方」「処理方法とリサイクル」「電池の知識」等について、『WE LOVE DENCHI』の内容に合わせて修正対応中
- ・機関紙「でんち」：毎月発行

### \* 展示会・イベント

- ・でんちフェスタ（東京）：11/7（土）日本科学未来館 ※16回目の開催  
来場者数：1,748名（昨年1,915名）  
内容：エネルギー体験教室、手づくり電池教室、子ども電池〇×クイズ、虎の子レース、充電電池体験、クイズラリー、パネル展示等を実施。ボタン電池のケースに「誤飲注意」のパネルを展示するとともに、エネルギー体験教室・〇×クイズにおいて「誤飲注意」のパワーポイントを使用してアナウンス。
- ・みらいのでんちアイデアコンテスト表彰式：11/7（土）日本科学未来館  
応募総数：180通  
選考：みらいのでんち賞3名、電池工業会賞7名を選出うち4名が表彰式に出席し、淡路谷専務理事より表彰状と賞品目録を授与

## (10) 東京都商品等安全対策協議会について

### \* コイン形・ボタン形電池の誤飲対策に関する電池工業会の取り組み

- ・電池工業会ガイドライン等の改定（PL委員会で対応）  
表示に関するガイドラインのうちコイン形リチウム一次電池を誤飲した際の危険性に関する項目について改定し、電池工業会のホームページ上で無償公開した。
- ・パッケージの表示改定について（各会員会社で対応）  
コイン形リチウム一次電池のパッケージへ注意喚起のための表示を改定する。具体的には、平成28年度より市場導入する。
- ・パッケージの設計改良について（技術委員会で対応）  
子供が開けにくいパッケージへの改良へ向け、電池工業会内にコイン形リチウム一次電池の「誤飲対策パッケージWG」を新設し、検討を開始した。電池工業会傘下の会員会社においては、改良したパッケージを平成28年度中に市場導入すべく取り組んでいく。
- ・電池そのものの改良（技術委員会で対応）  
電池そのものの改良は技術的には高いハードル

があるものの、電池工業会は、技術者の知恵を  
絞り、改良の取組を加速させるよう、引き続き  
会員会社に働きかけていく。

- ・消費者の安全意識の向上（広報委員会で対応）

11/7 電池フェスタ（東京）、11/13毎日新聞の  
PR広告で、電池を飲み込んだ場合「コイン形リ  
チウム電池は死に至ることがある」と、誤飲の  
危険性を発信した。

## 「2015 プロ野球最優秀バッテリー賞」表彰式

今年で25回目を迎えた「2015 プロ野球最優秀バッテリー賞」（主催：スポ  
ーツニッポン新聞社、協力：一般社団法人電池工業会）の表彰式が、平成27年  
12月11日（金）、東京都文京区の東京ドームホテルで開催された。

今年で25回目を迎える本賞は、投手だけでなく、  
日頃は縁の下の力持ち的な存在の捕手にもスポット  
ライトを当て、最強の「バッテリー」を表彰するも  
の。投手はローテーションの軸として、あるいは抑  
え投手としてシーズンを通して活躍したことが最低  
条件とされている。また、捕手はインサイド・ワー  
ク、盗塁阻止率の高さ、捕逸の少なさなどが条件と  
なる。

今回の最優秀バッテリー賞は、セ・リーグからは  
東京ヤクルトスワローズの石川雅規投手と中村悠平

捕手、パ・リーグからは北海道日本ハムファイター  
ズの大谷翔平投手と大野奨太捕手の両バッテリーが  
受賞した。今回は4選手ともに初めての受賞だった。

「バッテリー」つながりで創設以来本賞の開催に  
協力している電池工業会からは、プレゼンターとし  
て宮崎理事が出席し、各受賞選手にカーバッテリー1  
個の引換証と乾電池360本の目録を贈呈した。

表彰式の模様は、当日の夕方および翌朝のニュー  
スおよびスポーツニュースと翌日付けの各新聞・ス  
ポーツ新聞などで報道された。



写真提供：スポーツニッポン新聞社

# IRBCR、ICBR参加報告

## ～2015年 9/22～9/25 @モントルー～

2015年9月22日～2015年9月25日にスイスのモントルーで開催された  
IRBCRとICBRに電池工業会とJBRCから委員を派遣しました。



スイス モントルーで有名なシオン城

IRBCR (International Roundtable for Battery Collection and Recycling: 欧米日電池回収団体会議) は欧米日の電池リサイクラーが毎年集結し、各地域での課題等を情報交換する会議です。今年からは欧州からはEucobat (欧州電池回収団体連盟)、Bebat (ベルギー電池回収団体)、Stibat (オランダ電池回収団体) が参加し、米国からはCall2Recycle、日本からはJBRCと電池工業会が参加しました。これまでは、いかに多くの量を効率的に回収するか、に重点を置いてきましたが、再資源化率の向上や一次電池リサイクルプロセスのあり方など、新しい取り組みを始めています。



IRBCRの様子 (手前が日本)

ICBR (International Congress for Battery Recycling: 国際電池リサイクル会議) は、27ヶ国が

ら合計174名 (電池メーカ、電池の工業会、電池回収団体、リサイクラー、自動車メーカ、コンサルティング会社、政府機関など) が参加しており、今年で20回目の開催となります。



ICBRでのパネル・ディスカッションの様子

政府機関の基調講演を含む電池リサイクルに関する8つのセッションが2日間に渡り行われました。最終日には輸送規制のワーキンググループとBATREC社の電池リサイクル工場見学が行われました。



提供: BATREC

国際環境規制総合委員会では、今回の経験を国際的な電池の環境規制への対応に活かしていく所存です。

(国際環境規制総合委員会)

# ボタン電池回収で熊本県との 広報コラボキャンペーンを展開！



2013年の水俣条約採択を受け、昨年には国内法「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」が制定されるなど、水銀から人の健康と環境を守る取り組みが行なわれています。

一般社団法人電池工業会では、水俣条約に先駆け、2009年度から水銀適正処理を目的としたボタン電池回収（自主取り組み）を推進しておりますが、この度、水俣病を経験し、水銀対策に特に力を入れている熊本県との間で、広報のコラボキャンペーンが実現しました。

12月から、おなじみのくまモンをあしらった告知物を熊本県内の回収協力店全店に配布し、店頭での啓発に役立てていただくとともに、ボタン電池をお買い上げになったお客様にくまモンのシール付きチラシをお配りして、よりきめ細かく水銀使用製品の分別・回収への呼び掛けを行なっています。

また、熊本県では、まだボタン電池の回収協力店に登録していない小売店に対する入会の勧誘も合わせて実施しています。



コラボ ミニのぼり



コラボ チラシ



店頭の様子（株式会社ヨネザワ 本店補聴器サロン）

電池工業会では今後も自治体との広報協力を重視しつつ、ボタン電池の回収を推進していきます。

# 平成27年 12月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	10日(木)	広報ワーキンググループ	コイン型電池の誤飲対策について。
	10日(木)	広報総合委員会	でんちフェスタの反省、次年度の事業内容、HPの見直し、他。
	16日(水)	第198回 講習実施委員会	徳島県、神奈川県にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、合否を判定。
	17日(木)	新種電池研究会	中国電力 西ノ島変電所見学、新種電池講演会レビュー、他。
	22日(火)	国際環境規制総合委員会	地域別規制動向アップデート、アジア出張報告、他。
二次電池部会	4日(金)	自動車鉛分科会	IEC60095-1,-6の審議、SBA S0102 審議。
	4日(金)	二輪ワーキンググループ	IEC60095-7の審議。
	11日(金)	小形鉛分科会	IEC62902 CD (識別表示のドイツ提案)についての審議、他。
	11日(金)	電気車鉛分科会	SBA S 0803 改正審議、他。
	11日(金)	産業用電池技術サービス分科会	産業用蓄電池のリーフレット(テクニカルシート)につき改訂内容を検討、他。
	14日(月)	据置アルカリ分科会	IEC新規NP(Ni-MH)に関する審議、SBA S0507の審議。
	14日(月)	据置鉛分科会	SBA G0302、SBA S0301の審議、他。
	17日(木)	環境委員会	欧州ELV規制の情報確認、他。
	24日(木)	産業用電池リサイクル委員会	広域認定変更申請の状況審議、他。
25日(金)	用語分科会	SBA S 0405の進捗確認。SBA S 0507の改正審議、他。	
二次電池第2部会	4日(金)	据置LIB分科会	IEC原案検討。
	9日(水)	大形カスタムワーキンググループ	大形蓄電システムの普及促進検討。
	14日(月)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応審議。
	14日(月)	蓄電システムワーキンググループ	公共建築工事標準仕様書検討。
	18日(金)	LIB安全性技術ワーキンググループ	内部短絡試験に関する対応審議。
21日(月)	リチウム二次分科会	IEC62902 CD (識別表示のドイツ提案)についての審議、他。	
一次電池部会	3日(木)	器具委員会	電池器具安全確保のための表示に関するガイドラインの改訂審議、他。
	4日(金)	PL委員会	一次電池案園確保のための表示に関するガイドラインの改訂審議、他。
	7日(月)	消費者委員会	有事発生時の乾電池および携帯電灯の供給対応の検討、他。
	7日(月)	リチウムコイン二次電池国際規格ワーキンググループ	IEC61960-4審議。
	7日(月)	リチウム小委員会	IEC 60086シリーズ、62281の検討。リチウム電池輸送規制関係、他。
	8日(火)	技術委員会	各小委員会及びWGの活動報告。環境対応委員会からの依頼事項検討。電池誤飲対策の検討。
	9日(水)	規格小委員会	IEC60086シリーズの検討。JIS C 8500及びJIS C 8515改正審議。
	10日(木)	誤飲対策パッケージワーキンググループ	BAJガイドライン検討、他。
	11日(金)	一次電池部会	各部委員会からの活動報告、他。
	15日(火)	環境対応委員会	第5回技術的事項検討会における事業者ヒアリング報告、他。
	18日(金)	資材委員会	原材料の動向の分析やコンプライアンス遵守(下請法他)に関する意見交換、他。

# 10月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2015年10月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

2013年より経済産業省の機械統計は「その他の乾電池」が削除されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	391,118	68,936	104%	94%	3,497,613	659,510	102%	100%
一次電池計	261,549	9,695	112%	115%	2,184,858	77,582	100%	105%
酸化銀電池	83,574	1,417	117%	112%	700,367	12,417	104%	107%
アルカリ乾電池計	96,171	4,796	113%	120%	750,469	33,860	97%	99%
単 三	51,693	2,231	117%	128%	395,010	15,253	93%	97%
単 四	28,481	1,280	109%	119%	234,949	9,250	101%	102%
その他	15,997	1,285	110%	110%	120,510	9,357	101%	100%
リチウム電池	81,804	3,482	106%	110%	734,022	31,305	101%	111%
二次電池計	129,569	59,241	90%	92%	1,312,755	581,928	104%	99%
鉛電池計	2,562	14,609	97%	103%	25,256	138,179	97%	102%
自動車用	1,906	9,077	100%	105%	18,832	86,025	98%	102%
その他の鉛蓄電池	656	5,532	88%	101%	6,424	52,154	95%	102%
アルカリ蓄電池計	48,219	15,039	99%	91%	446,604	147,416	100%	96%
ニッケル水素	39,857	13,692	98%	91%	363,067	133,073	100%	95%
その他のアルカリ蓄電池	8,362	1,347	106%	93%	83,537	14,343	97%	100%
リチウムイオン蓄電池計	78,788	29,593	85%	87%	840,895	296,333	106%	100%
車載用	24,166	14,324	46%	62%	362,132	165,445	120%	98%
その他	54,622	15,269	134%	141%	478,763	130,888	98%	104%

## 10月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2015年10月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	214,896	39,561	108%	90%	1,906,957	375,752	107%	107%
一次電池計	110,010	2,787	122%	110%	914,210	25,266	107%	115%
マンガン	2	6	3753%	1284%	114	58	405%	146%
アルカリ	2,768	68	115%	108%	22,446	572	65%	73%
酸化銀	54,673	690	127%	119%	449,138	5,949	103%	104%
リチウム	52,452	2,016	119%	117%	441,447	17,832	115%	122%
空気亜鉛	40	0	14%	14%	691	10	49%	65%
その他の一次	75	6	134%	4%	374	846	79%	98%
二次電池計	104,887	36,774	96%	89%	992,747	350,485	107%	107%
鉛蓄電池	190	1,115	112%	105%	1,785	11,197	126%	130%
ニカド	5,772	485	122%	112%	58,481	5,326	104%	111%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	1	35%	56%
ニッケル水素	15,119	6,126	133%	107%	121,108	52,931	112%	106%
リチウムイオン	81,495	21,575	92%	92%	784,562	200,922	109%	113%
その他の二次	2,310	7,474	59%	71%	26,812	80,107	71%	91%
全電池合計（輸 入）	177,614	13,931	137%	125%	1,134,442	128,091	95%	119%
一次電池計	170,069	2,761	141%	136%	1,057,922	19,848	95%	104%
マンガン	15,548	227	99%	105%	110,708	1,552	86%	98%
アルカリ	136,109	1,889	156%	159%	782,980	11,418	95%	106%
酸化銀	373	11	84%	107%	2,681	79	86%	92%
リチウム	13,819	538	97%	96%	116,394	5,297	101%	102%
空気亜鉛	4,128	80	150%	173%	44,727	899	101%	118%
その他の一次	91	16	85%	135%	433	603	27%	78%
二次電池計	7,545	11,170	85%	123%	76,520	108,242	95%	122%
鉛蓄電池	644	2,707	90%	95%	6,343	27,189	94%	105%
ニカド	76	161	37%	89%	1,036	1,778	74%	104%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	1	227%	99%
ニッケル水素	2,186	550	115%	96%	18,221	4,951	102%	99%
リチウムイオン	3,450	5,958	82%	131%	41,931	61,327	116%	131%
その他の二次	1,189	1,795	64%	194%	8,990	12,996	48%	144%